

(令和7年6月24日発表)

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）患者の発生

◆概要	・静岡市において、マダニが媒介する感染症「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」の患者が確認されました。 ・市内での発生は2例目であり、今回の患者は6月23日に亡くなりました。
◆内容など	◆発生状況 SFTSは、2013年（平成25年）から感染症法に基づく4類感染症に指定されており、県内では2021年（令和3年）以降、年間4～6件の発生が報告されています。今回の症例は県内で20例目、市内では2021年6月以来、2例目となります。 ※4類感染症：動物や飲食物などを介して人に感染する疾患（例：日本紅斑熱、つつが虫病、レジオネラ症、E型肝炎など） ◆患者情報 居住地：駿河区 年齢・性別：60歳代・女性 経過： ・6月16日 発症 ・6月19日 市内の医療機関を受診、入院 ・6月23日 SFTSと診断、同日22時ごろに死亡確認 症状：発熱、腹痛、全身のだるさ、血小板と白血球の減少 感染経路：不明（調査中） ◆市民への呼びかけ ・SFTSは、ウイルスを持つマダニに咬まれることで感染します。山や草むらでの活動時は、肌の露出を避け、野生動物との接触にも注意してください。ダニ媒介感染症への注意点は、別紙をご参照ください。 ・マダニに咬まれた場合や、その後に発熱、発疹、倦怠感などの症状があれば、早めに医療機関（内科・皮膚科など）を受診してください。 ◆報道機関の皆様へのお願い 感染症予防の啓発を目的として情報提供しております。亡くなられた方とご遺族のプライバシーにご配慮いただくとともに、医療機関への直接の取材・お問い合わせはご遠慮ください。

別紙資料 ⑤・無

【問合せ】保健所感染症対策課 結核・感染症係
 （城東保健福祉エリア 保健所棟2階）
 担当 神邊、稲葉
 電話 054-249-3172

マダニが媒介する感染症にご注意ください

市内でも、マダニが媒介する感染症が確認されています。

春から秋にかけてマダニの活動が活発になり、野外活動やレジャー、農作業などを通じてマダニに咬まれるおそれがあります。

マダニがウイルスや細菌を保有している場合、感染症を引き起こすことがあります。

以下の点にご注意ください。

1. マダニに咬まれないための予防策

特に春から秋はマダニの活動が活発な時期です。野山、草むら、畑などに入る際は、以下のような服装で肌の露出を避けましょう。

- ・ 耳を覆う帽子
- ・ 首に巻くタオル
- ・ 長袖・長ズボン
- ・ 足を完全に覆う靴

市販のマダニ忌避剤も併用し、総合的な対策を取りましょう。忌避剤のみでは防ぎきれない場合があります。

2. 屋外活動後の体調確認

活動後は、マダニに咬まれていないか確認してください。

咬まれた場合は、1～2週間ほど体調の変化に注意し、以下の症状があれば早めに医療機関（内科・皮膚科など）を受診してください。

- ・ 発熱
- ・ 発疹
- ・ 倦怠感 など

受診時には、「マダニに咬まれた可能性がある」と医師に伝えてください。

3. 野生動物やペットとの接触にも注意

野生動物がどのような病原体を持っているかは分かりません。以下の点にご注意ください。

- ・ 野生動物との接触は避ける
- ・ 動物の死骸に触れない
- ・ ペットへの口移しでの餌やりや、一緒に布団で寝ることは控える
- ・ 動物に触れた後は必ず手を洗う
- ・ マダニが付着している場合は適切に駆除する

ペットに元気がない場合は、咬まれたりなめられたりしないよう注意し、早めに動物病院を受診してください。

【問い合わせ】

静岡市保健所 感染症対策課 結核・感染症係 電話：054-249-3172

【参考ページ】

- マダニに咬まれないよう注意しましょう（静岡市）
URL <https://www.city.shizuoka.lg.jp/s2371/s003406.html>
- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について（厚生労働省）
URL <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000169522.html>
- マダニ対策、今できること（国立健康危機管理研究機構）
URL <https://id-info.jihs.go.jp/diseases/route/arthropod-borne/030/madanitaisaku.html>
- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは（国立健康危機管理研究機構）
URL <https://id-info.jihs.go.jp/diseases/sa/sfts/index.html>